

山の多角経営、 まさに「暮らしの実験室」

①

深い考えもなく入った大学、卒業後サラリーマンになるのだけは嫌だと、「田舎暮らし」の仕事を選ぶ。そこで川下りの技術を付けたりで、すっかり野外生活や田舎暮らしに馴染んでしまった。美山から広河原へ抜ける街道にある「田歌舎」のオーナー藤原誉さんの話である。

美山に来て、後で紹介する「おもしろ農具倶楽部」の外田洋一さんや江和ランドの大野さんらと出会い「山のフリーター」をやりつつ大工仕事や農業や狩猟を覚えた。美山に来て出会った奥さんの有さんと一緒に始めたのが、田歌舎。「田歌舎」は大人組初登場ではない。6年前にも登場している。でもその6年でもかなり深化した。

当時着工した8角形のログハウスも完成し、奥にはポスト&ビーム式建築のシンブルな宿泊施設も。

スタッフは8人もいる。もはや美山では立派な企業だ。やっていることは、多国籍料理のカフェ、猪、鹿などジビエの肉屋、宿、山羊のチーズ作り、キャックやラフティング、山歩きなどのネーチャーガイド、合鴨農法でのコメ作り、ハーブや野菜の自家菜園、パンやクッキーの製造販売、建築請負、太陽光発電などなど。

太陽光パネルの発電システムは東日本大震災がきっかけだった。自給自足が最終形ではない。「おひさま発電所」と名乗る通り売電が目的。年間40万円の収入になるとか。そういうところがしっかりしている。「山の生活を売り物にしている」のではなく自然から人間の本来の暮らしを学び、訪れる町の人々に、「田歌舎」という形を通じて





① この道をまっすぐ行くと佐々里峠をぬけて広河原へ。左に行けば、福井の小説にも描かれる、
 ② 古無業流の水田。これ以外にも田んぼは9段もある。
 ③ 山羊はチーズ用にメスだけ、オスを入れると臭いのだから。
 ④ 山暮らしは歳をとらないらしい。6年前と変わらない二人。藤原さん、今や年間100個近い壺
 を仕留める獲物でもある。後ろが3年前にできた八角形のログハウスレストラン。その後ろには宿
 泊棟。3グループ20人まで宿泊可。一泊6500円。
 ⑤ とても使い勝手の良さそうな宿泊棟の部屋。
 ⑥ 名物シカカバブと自家製パン、ピクルス、山羊のチーズ添えのカバプレート1500円。
 ⑦ 建てるのは苦労しただろうはずの八角形、でも居心地はとても良い。

提案しているのだ。きつとこらうだ。
 今のところ、これぐらいだが、やりた
 いことはいくらでも出てきそう。何しろ
 藤原さん、まだ、41歳。スタッフ8人も
 みんな若い。それが、とてもうらやま
 しい。

DATA

田歌舎

☎0771-77-0509 ②京都府南丹市美山町田歌上五波1 ☎10:00~17:00 ③月曜 ④宿泊
 など要予約 ⑤周山街道安掛交差点から38号線15分

